

茂原市青少年相談員連絡協議会

青少年相談員だより

発行日／令和3年3月31日
TEL 0475-23-2111 (代)

発行所／茂原市青少年相談員連絡協議会（茂原市道表1 茂原市教育委員会内）
会長・齊田 まゆみ 編集責任者・風戸 嘉幸

vol.
102
2021

「地域の子供は、地域で育てる」 このようなときだからこそ、心を一つに!



茂原市青少年相談員連絡協議会
第20期会長 齊田 まゆみ

春光うらかな季節を迎え、皆様にはますますご健勝のことと存じます。

平素は私共の活動にご協力いただき、心よりお礼申し上げます。

さて、20期青少年相談員がスタートしてから早2年が経ち、残すところあと1年となりました。一昨年は台風・洪水の自然災害に見舞われ、昨年は新型コロナウイルスの蔓延と、私たち青少年相談員にとっても厳しい状況が続き、2年連続で「ふぁみりーグラウンドゴルフ大会」「つつじマラソン大会」の2大イベントを中止せざるをえませんでした。

そのような中でも、毎朝元気に学校へと向かう子ども達の笑顔を見ては、「私たちも頑張らないといけないな!」と、いつも励まされ、勇気付けられています。早く子ども達に会いたい! 楽しく交流を深めたい! と常日頃から願っておりますが、まだ事業再開の見通しが立たず、とても歯がゆい思いをしております。

ですが、このまま立ち止まってばかりもいられません! まずは、一昨年の洪水で水に浸かり汚れてしまった青少年相談員連絡協議会所有の大鍋を、災害時に役

立てることができるように新調し、ユニフォームについても、小さなお子様にも名前を呼んでいただけるように、胸元にひらがなで名字を刺繍したものを揃えさせていただきました。本年度こそは、大鍋やユニフォームが大活躍してくれる場が来ることを、切に願っております。

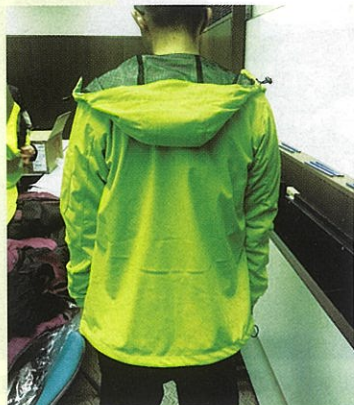
また、これから先のことを考え、今までの事業を見直して、天候にも左右されない、青少年の豊かな人間性や個性・感性を育てられるような新規事業を立ち上げたいと思っています。

「地域の子供は 地域で育てる」

この理念は、今も変わっておりません。なかなか子ども達と触れ合うことができませんが、このような時だからこそ、相談員の心を一つにして、私たちに何ができるかを考え、活動してまいりたいと思います。

どうかこれからも皆様のご理解ご協力を賜りますとともに、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この状況が一日も早く解消され、また子ども達や皆様にお会いできる日を楽しみにしております。



相談員の新しいユニフォーム。
この姿で皆さんにお会いできる日を楽しみに。



令和元年の水害で被災した大鍋。
これを機会に更新しました。



苦渋の決断

つつじマラソン大会 やむなく中止



参加者の安全を第一に！

【体育委員会より】

茂原市つつじマラソン大会は、令和元年度に続き、令和2年度もやむなく中止とさせていただきます。

令和元年10月25日に発生した豪雨の影響で、茂原公園内では一部で土砂崩壊が発生し、立ち入り禁止等の措置が取られていました。

体育委員会では、開催可否を判断するため、令和元年11月3日に公園内を点検しました。その結果、倒木や植木支柱の傾斜を確認し、開催するための対策を検討していましたが、水害復旧作業の目処が立たないことや、参加者の安全を最優先に考え、苦渋の決断で開催中止を決定しました。参加を楽しみにしていた皆さんには、大変申し訳ございませんでした。

令和2年度についても、新型コロナウイルス感染防止のため、評議会で話し合った結果、2年続いての中止を決断しました。

令和3年度は、茂原公園の改修工事が予定されており、仮につつじマラソン大会を開催できたとしても、例年とは同じコースを走ることができません。選手、保護者、関係役員など参加者の安全を第一に、検討してまいります。

1日も早い新型コロナウイルス感染症の鎮静化を願うとともに、いつかまた皆さんにどんな状況でも楽しみながら参加していただけるイベントが開催できるよう、引き続き活動してまいります。ご理解とご協力をお願いします。



弁天湖脇の柵が損傷していました。大会までに復旧が困難であれば、黄黒ロープやカラーコーン等で立ち入り規制の対策が必要と考えました。



道路側の法面が崩落しているため、立ち入り禁止となっていました。大会まで本復旧が見込めない場合は、立ち入り禁止区画を設ける必要があると考えました。

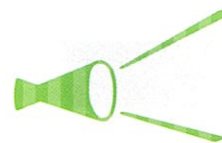


支柱にズレが生じており、外れる可能性があると考えました。支柱を鳥居型に変更するよう市役所に要望すべきと考えました。



災害ごみの仮置き場となった茂原公園の駐車場。この時点では、いつごろ片付くのか、見当が付きませんでした。

※写真はいずれも令和元年11月時点のものです



令和2年度から 紙面レイアウトと配布方法が変わりました 「青少年相談だより」と「青翔」を統合

【編集委員会より】

青少年相談員連絡協議会編集委員会では、青少年相談員活動の広報のあり方について、編集委員会会議において話し合いを重ねてきました。

これまでは広く市民に向けて青少年相談員活動を広報する「青少年相談員だより」と、会内誌である「青翔」を、それぞれ年1回発行してきました。

その配布方法についても、「青少年相談員だより」は、自治会を通じて毎月配布（1軒ずつ配る）をしてきましたが、「あまり見てもらえていないのでは？」という意見もありました。

「せっかくの活動を、もっと外に発信すべきでは？」

「そもそも、相談員ってどういう存在なのか、あまり知られていない」

「子どもを通じて保護者に配布してはどうか」

などの意見を踏まえ、話し合った結果、次のようになりました。



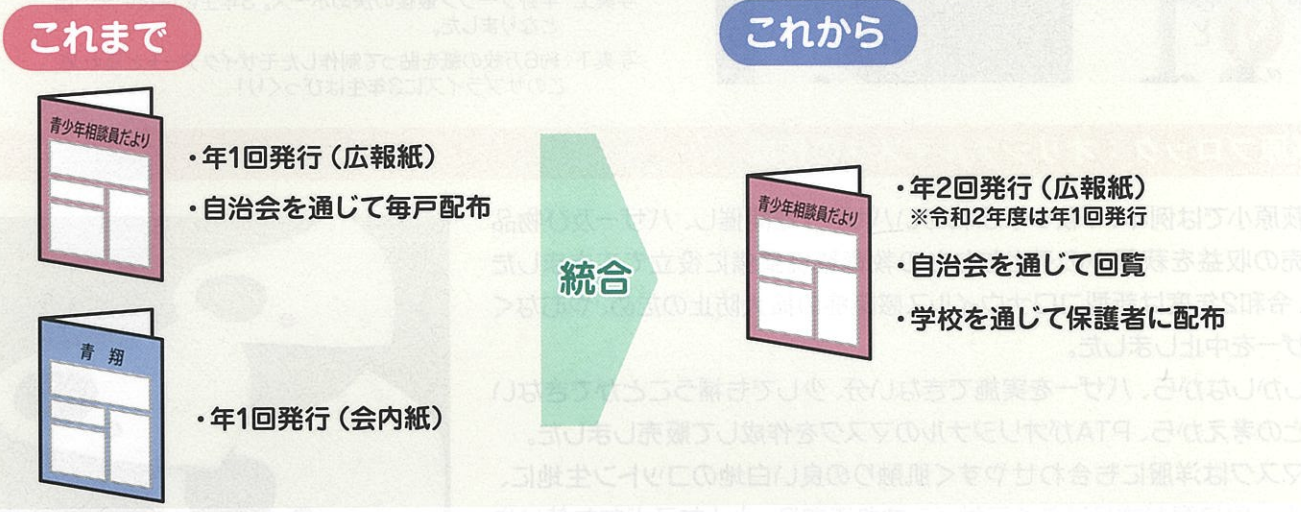
編集委員会会議の様子(コロナ禍前)

青少年相談員連絡協議会 Facebookページを運用中

青少年相談員連絡協議会では、Facebookページを運用しています。ぜひ「いいね！」を押してフォローしてください！



<https://www.facebook.com/mobara.soudan.in/>



【予告】 青少年写真コンテスト (仮称)



青少年相談員連絡協議会では、これまで青少年健全育成事業として、「ふあみりーグラウンドゴルフ大会」、「つつじマラソン大会」という2大イベントを実施してまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響で、大人数が集まる行事は、当面の間難しいのが実情です。



そこで、文化委員会・編集委員会では、新規事業として、「青少年写真コンテスト(仮称)」の開催を検討しています。

あるテーマに沿って、子どもたちが撮影した写真(スマートフォン等で可)に、自らタイトルと説明文を書いた作品を、SNS等を通じて募集します。

想いを込めて被写体に眼差しを向け、その一瞬を写真として切り取る。コロナ禍で集まることができない時代だからこそ、想いの詰まった作品をオンライン等で展示して、少しでも明るい気持ちになっていただきたいと思います。

詳細はこれから詰めてまいります。募集が開始された暁には、ぜひ積極的なご応募をお待ちしています。

各ブロックからの報告

～コロナ禍に負けるな！それぞれの取り組みを紹介～

五郷ブロック：早野ソーラン演舞（早野中学校）

●期日：令和2年7月31日（金） ●場所：早野中学校



早野中ではコロナ禍で運動会が中止となる中、3年生による運動会恒例の「早野ソーラン」演舞が7月31日に行われました。

「最高のソーランと一番の感動を」の言葉のもと、息の合った力強い演舞を披露。その後3年生へ1・2年生がエールを送り、2年生がサプライズで準備したモザイクアートと垂幕も披露されました。

企画から約1ヶ月をかけ全校で取り組んだ早野ソーランは成功に終わり、3年生にとって特別な1日となりました。「後輩のために」と伝統を繋いだ3年生、3年生への感謝を応援で表現した1・2年生、生徒達をサポートしてくださった先生方、一生懸命活動する姿はコロナ禍の五郷での明るい話題となりました。

写真上：早野ソーラン最後の決めポーズ。3年生には良い思い出となりました。

写真下：約6万枚の紙を貼って制作したモザイクアートと垂れ幕。このサプライズに3年生はびっくり！



萩原ブロック：オリジナルマスクの作成

萩原小では例年、「萩っ子ふれあいバザー」を開催し、バザー及び物品販売の収益を萩原小の子どもたちの教育環境整備に役立ててきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、やむなくバザーを中止しました。

しかしながら、バザーを実施できない分、少しでも補うことができないかとの考えから、PTAがオリジナルのマスクを作成して販売しました。

マスクは洋服にも合わせやすく肌触りの良い白地のコットン生地に、萩原小の校章がさりげなくデザインされており、大人も子どもも使いやすいものとなっています。



豊田ブロック：教頭先生取材して



今回は、豊田小学校の村杉教頭先生から小学校の取り組みについて伺いました。

4年生の校外学習では、業者を呼び簡易的なプラネタリウムを体育館に設置して、感染防止対策を行いながらプラネタリウムを見る活動を行いました。

運動会は、保護者を呼ぶことはできませんでしたが、全種目を行い、児童達にとって思い出に残る素晴らしい運動会となりました。

10月26日（月）に「とよだ会」として、日中に豊田小伝統の4年5年6年の「よさこいソーラン節」を6年生の保護者に披露し、夕方16時30分から18時まで、6年生の児童と先生方による「きもだめし大会」を校内で実施したそうです。

普段は行かない夜の校舎と気合いの入った脅かしに、児童達は度肝を抜かれたり、悲鳴をあげたりして「とても楽しかった」と友達との思い出を作ることができたとのこと。

取材を通じて、コロナ禍だから「中止」ではなく、コロナ禍でも「できることはある」との先生方と児童たちの熱い思いを感じ、心が温かくなりました。

